



◆ アイヌ文化のことをもっとも話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソッコ(=お便り)形式のエッセイです。



今月のテーマ

コロコニ(フキ)

本田優子(札幌大学教授)



プ

クサ(ギョウジャニンニク)などの山菜が盛り
を過ぎると、今度はコロコニ(フキ)のシーズン。
本州からのお客様は北海道の巨大なフキにビックリ
されるけど、実は同じアキタフキなんです。人の背
丈よりも高い足寄町あしよのラワンフキでさえ、同じだと
いつから驚き。

アイヌ語のコロコニは、コロコ

フキの葉、コンニ(フキ)を持つ木
という意味に分解されます。こ
のコロコという響きから、コロポッ
クルを連想する人いませんか？

実は、コロコフキの葉、ポク(フキ)の
下、クル(人)という意味なの
です。コロポツクルの伝承は明治
時代、日本人のルーツをめぐる
学説にも影響を与え、「コロポッ
クル論争」が学界を賑わせたり
もしました。私の同僚の瀬川拓
郎教授は、コロポツクルはかつて

の北千島アイヌのことではないかとの説を提唱されて
ます。たしかに、フキの下の人ということから、小人と
か妖精妖精って思われてるけど、ラワンフキの下なら小人
じゃなくても立って歩けるよね。

ところで足寄町はフキだけじゃなく恐竜でも有名だ
けど、ある時、足寄動物化石博物館の澤村館長さわむらさんが



イラスト/ 莊田悠人

こうおっしゃったの。「ラワンフキはどつしてあんなに
大きいと思えますか?」「それを知りたかったんです!
なぜですか?」「実は…地面の下で恐竜が眠っているか
らです」。爆笑!なんて素敵!

ともあれ、フキはアイヌ文化でも本場に大切な食
材。干したものを前日から水でもどすと、ふっくらと

柔らかくなり、オハウ(汁物)

に入れると香りも良いと言わ
れます。最近では塩漬けも多い
けど、道東のフチ(おばあさ
ん)は、茹でて皮を剥いたフキ
を大きな樽に敷き詰め、その上
に剥いた皮を敷き、その上
にまたフキを置き…サンド
イッチのように何重にも挟ん
で、重石おもしを置くという方法で、
まったく塩も使わずに青々と
したフキの保存食を作ってい
らっしゃいました。どつして腐

らないのか不思議でお尋ねしても、「フキの皮つて本
当にすごいんだわ」とニコニコされるだけでした。

そのほか、麻疹はしかの時にはフキの根っこを煎じて飲ま
せると治りが早いと言われるし、山泊まりでは大きな
葉っぱで葺いたコロチセ(フキの仮小屋)を作ったり…。

まさしくオールラウンドプレイヤーなのです。



次回のテーマは「ウセイ(お茶)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)
が担当します。



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

北海道白老町にOPEN予定



ウポポイPRキャラクター
「トウレツポイン」

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 莊田悠人(しょうたゆうと):平取町二風谷生まれ。漫画家兼イラストレーター。幼い頃のアイヌ文化が原風景。東京在住。

